

開一小だより

第463号
令和8年1月30日発行
練馬区立開進第一小学校
<https://cms.nerima-tky.ed.jp/swas/index.php?id=110>



令和8年度を見据えて～学校評価の結果を生かしながら～

副校長 沖山 宗弘

2月に入ると令和7年度も残すところあと2ヶ月、全校児童が登校する日数はあと35日（6年生は36日）となります。令和7年度内にも公開・非公開、校内・校外を問わず多くの活動を行ってきました。そのたびに保護者や地域の皆様には校外学習の昼食の用意、運動会や音楽会の参観、見学の機会や活動場所の提供など、多大なる御理解・御協力をいただきました。また、PTA本部の役員の皆様やひろば運営の方々には、今年度より復活させた見守り事業である学校安全安心ボランティア活動にも御参加いただいているところです。改めて学校は、地域や保護者の方々の御協力があってこそ運営できることを実感しております。この場を借りて深く感謝申し上げます。「一月往ぬる（いぬる）二月逃げる 三月去る」という慣用句がございますが、同時に子供たちにとっては1つ上の学年に上がることを実感する大切な時期でもあります。この2ヶ月をただ過ぎていくだけの時間にならないように、教職員一同、一致団結して子供たちの指導に当たってまいります。

さて、12月上旬から下旬にかけて行った「学校評価アンケート」を今年度はsigfyにて実施させていただきました。429名の保護者方に回答をいただき、回答率は67%でした。回答への御協力、誠にありがとうございました。現在、学校では**令和8年度（令和8年4月からの1年間）の教育課程の編成**の時期に入っています。文部科学省の打ち出す教育方針も踏まえながら、変化の激しい時代において、本校でどのような教育をし、資質・能力として何を子供たちに身に付けさせていくかということについてよく考えながら編成していきます。この教育課程を編成する上で、前述した「学校評価アンケート」の結果を生かすことはとても重要です。児童・保護者・地域の皆様からの御回答から、本校の成果や課題が客観的に見えてくるからです。以下、学校評価の結果と考察を掲載します。

○児童と保護者・地域の皆様とで関連を見る質問（網掛けは数値の高い方、（数）は昨年度比）

上段：児童への質問 下段：保護者への質問	児童の肯定的な回答の割合	保護者・地域の皆様の肯定的な回答の割合
1 学校は楽しいですか (お子さんは楽しく学校に通っていますか)	91%(+1)	94%(+1)
2 授業はよく分かりますか (学校は学力や学ぶ意欲を高める授業をしていますか)	95%(+1)	90%(-3)
3 自分からすすんで読書をしていますか (お子さんは自分からすすんで読書をしていますか)	70%(-2)	50%(-3)
4 あいさつはすすんでできますか (お子さんは自分からすすんであいさつができますか)	86%(-3)	75%(± 0)
5 自分のことは好きですか (お子さんは自己肯定感が高いですか)	74%(-6)	72%(-2)
6 学校行事は楽しいですか (授業以外（行事等）で子供たちの頑張りが見えますか)	92%(± 0)	97%(-1)
7 家庭学習の時間 学年×10分やっていますか (お子さんは家庭学習を学年×10分やっていますか)	72%(-4)	72%(-2)
8 運動や遊びなどで体をよく動かしていますか (お子さんは運動や遊びなどで体をよく動かしていますか)	84%(-4)	74%(-1)

1の考察

「明日も学校に行きたい。」と毎日子供たちが思って、登校できることが何よりです。数値としては高いのですが、否定的な回答をしている子供、保護者が1割程度いることを肝に銘じます。子供たち一人一人に寄り添い、学校が楽しくないと感じている理由を様々な手段や立場で把握し、改善を図っていきます。

2の考察

子供たちが学校にいる時間の多くが「授業」の時間です。その授業がよく分かるということは、子供たちが学校に来るモチベーション向上にもつながります。高い数値を維持しているので、今後も教員一同、教材研究を丁寧に行い、子供たちの主体性を育み、分かる・できる授業づくりを目指していきます。

3の考察

読書に対する取組は、夏休みの図書室読書機会、秋の読書旬間等で行っています。PTA サークルマザーグースの皆様の読み聞かせも本当にありがたい限りです。子供たちと保護者等、低学年(1～3年生)と高学年(4～6年生)とでも大きく数値が離れています。特に高学年になるにつれて、学校でも図書の時間が減るうえに、家庭でも読んでいないという子供が多くなる傾向にあるようです。読書をする時間の確保、読書の意義の理解等、学校として読書に対する取組を見直し、改善を図っていけるように努力します。

4の考察

毎朝、廊下などですれ違う際に多くの子供たちが挨拶をしています。代表委員会の児童が毎週水曜日にあいさつ運動をしてくれているのも、確実によい効果となっています。しかし、保護者等から見て、「すすんで挨拶」という視点ではもっと頑張ってほしいということだと考えられます。挨拶は人と人とのコミュニケーションの基本であり、挨拶をし、返しがあるととても気持ちよく過ごすことができます。粘り強く・継続して学校でも挨拶を活発にしていきます。

5の考察

自己肯定感を見る質問です。子供たち、保護者共に3割近くの方々が否定的に捉えていることを肝に銘じます。そのためには、周りの大人、友達からの称賛が何より大切です。学校では、全校朝会等で特技を披露してもらったり、表彰をしたりしています。また、異学年や異校種の方々との交流、特別活動の充実等も図っています。一人一人に必ずよいところ、得意なところは必ずあります。ぜひ、御家庭でも、お子さんのよさをたくさん褒めていただき、「自分を好きになる子」が一人でも多くなるよう御協力をお願いします。

6の考察

今年度は、開一まつり・運動会・いちょう音楽会等の全校での学校行事がありました。その他にも移動教室や社会科見学など各学年での行事もありました。行事は普段の授業とはまたひと味違う体験ができ、子供たちを成長させるよいきっかけになります。来年度も真に子供たちのためになる学校行事を企画・立案し、実施していきます。そして、子供たち自身がつくり上げていく部分も大いに入れて、「よりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を養う」という学校行事の目標達成にもより近付けていきます。

7の考察

家庭でも学習をする習慣を身に付けることが大切です。そのための一般的な目安が小学校は、学年×10分と言われています。復習・予習・読書・自主学習等内容は様々考えられますが、「やらされている」から「自分からやる」という姿勢に導いていく必要があります。家庭学習の習慣を身に付けるための働きかけの方法について、近隣の小中学校とも連携しながら教職員で協議し、より積極的な働きかけをしていきます。

8の考察

5月に行った「新体力テスト」の結果を見ると、5・6年男子、1・2・5年女子以外は、テストの合計値が東京都の平均を超えるました。学校では遊びの時間、体育の授業、もりもりウィーク等で意図的に運動する時間を確保してきました。保護者等と子供たちとで肯定的評価に開きがあるのは、家庭での過ごし方が影響しているものと思われます。運動は健康な身体づくりはもとより、仲間とのコミュニケーションも図れます。向こう2年間、長寿命化工事により運動時間の確保に苦慮するところではありますが、学校以外も含めた「運動の日常化」

を図れるよう、教職員で協議を重ねます。

○児童単独の質問

質問	肯定的な回答の割合
1 学習用タブレット端末を活用していますか	82%(-3)
2 自分はみんなのために役に立っていますか	71%(-4)

1の考察

学習用タブレット端末は、今の6年生が2年生になったときから導入されました。5年生以下は、入学したときから、タブレット端末が当たり前にある学校生活です。ただし使用と活用とは別物ですし、学習形態・内容によって効果的に活用できることが大事です。これから情報社会、このようなタブレット端末を使いこなしていく能力が更に求められます。また受け手としてではなく、発信する側の責任についても自覚する必要があります。2月より順次ドングル不要の新型端末になり、利便性が向上します。タブレット端末を文房具の一つとして活用できるよう、今後も授業の中でも積極的に取り入れていきます。

2の考察

自己肯定感に加えてもう一つ子供たちに高めてほしいのが「自己有用感」です。低学年は8割以上が肯定的に捉えていますが、高学年は4割が否定的に捉えていて数値に大きな差があります。学級、学年、あるいは学校全体の中で自分が他者から認められ、集団の中で役に立っているという思いをもつことができれば、更に学校生活が充実し自信をもてます。学級での活動、学校行事等で、一人一人が活躍できる場面を多く設定することで、自己有用感を高める機会を増やしたいと考えます。また異学年交流や地域とのかかわりなどを設け、「自分はみんなのために役立っている」と一人一人が思えるようにしていきたいと思います。

○保護者・地域の皆様の単独の質問

質問	肯定的な回答の割合
1 お子さんが安心して生活を送ることのできる学校ですか	91%(-2)
2 学校の情報・状況はよく伝わっていますか	85%(+3)

1の考察

毎日、保護者の皆様が送り出してくださり、日中の多くの時間、学校で生活している子供たち。そこが安心できる場所でなければなりません。肯定的な回答が9割を超えていましたが、これからもいじめ・差別・からかい等がなく、安心して生活ができる学校づくり、そして緊急時（地震・火災・不審者侵入等）にも落ち着いて行動できるような定期的かつ実践的な避難訓練の実施、工事等で目まぐるしく状況は変わりますが、全教職員で校舎内外の環境面の安全点検を繰り返すこと等、抜かりなく行っています。

2の考察

学校・保護者・地域の皆様とが協力して子供たちを見守り、支えていくことで子供たちのよりよい成長が望めます。そのためにも、学校の情報・状況をオープンにして、保護者・地域の皆様に知っていただきたいと考えています。15%の方々が否定的に捉えていることを真摯に受け止めます。学校のホームページの定期的な更新に加えて、sigfyでのタイムリーな情報発信、授業公開や学校行事等を行い、直に子供たちの様子や教職員、学校全体を見ていただくことを継続していきます。また、PTAを通した安全安心ボランティアのお願い、授業への参加（ゲストティーチャーや学習ボランティア等）も積極的にお説明していきます。

その他、今回の学校評価アンケートには、**自由記述の御意見**も記入していただきました。

実際にたくさんの御意見をいただきました。

学習面、生活面、児童の持ち物、家庭学習の在り方、子供の人間関係、環境面、学校行事の在り方、教職員への期待等です。そのいただいた御意見の一つ一つは、私たち教職員が今までの取組を見直し、改善の視点をもつきっかけとなる実に貴重なアドバイスだと認識しております。上記の数値で出てきたアンケート結果とともにいただいた御意見も併せて、工事の制約も加味しながら、令和8年度の教育課程を編成してまいります。